



第16次県費事務改善検討委員会の報告です

第16次県費事務改善検討委員会において県事協版「諸手当認定・電算マニュアル」「学校事務の実務手引書」「福利厚生団体様式記入例」「『出産・育児』ハンドブック」の更新を行いました。県費事務改善検討委員・常任委員の皆様には、職場の業務もすすめながら、内容の検討・更新作業に携わっていただきました。

また、県教育委員会教職員課・総務福利課をはじめ、県教職員福祉事業連絡会の各団体におかれても、業務御多用の中にも関わらず点検や情報提供をしていただきました。私たち学校事務職員が業務を適切に行うために、多大な御協力をいただきました関係の皆様には、厚く御礼を申し上げます。

編集にあたっては、制度や様式の改正に対応するとともに、会員の皆様から提供いただいた情報をもとに検討し、内容の充実を図りました。認定事務や福利厚生の手続きに、給与事務にあたっての確認や学習に、お近くに置いて御活用いただければ幸いです。「『出産・育児』ハンドブック」は、学校事務職員だけではなく、教職員の皆様にもお役立ていただけます。あわせて御活用いただければ幸いです。更新されたデータは、各地区へ配布した「2021県事協CD」に掲載されています。加えて、県事協ホームページにも順次掲載します。

なお、内容現在は編集時点(2021年11月30日)のものであり、これより後の条例や様式等の改正には対応しておりません。最新の情報と照らし合わせながら御利用ください。

各編とも会員の多くの方に御利用いただき、今次の更新にも数多くの情報を寄せていただきました。次年度も引き続き検討を重ね、県事協の目的である「県下の学校事務職員が等しく情報を共有・享受し、広域的に連携する」ことに寄与してまいります。

お気づきの点や事例、地区研修会等における質疑応答などの情報を、各地区の評議員または次年度の県費事務改善検討委員へお寄せください。会員の皆様の御意見をもとに、学校現場の要望や実態に即した改善が図れるよう、次年度も更に充実を期してまいります。(事業担当理事)

来年度の県費事務改善検討委員会に向けて

上記の第16次報告でも触れていますが、例年、5月の第1回評議員会で、県事協マニュアル等に掲載する質疑応答の収集について案内しています。現場から出された質疑に教育事務所が文書等で回答したもののうち、広く県下で活用できる情報を掲載する予定です。

各地区で収集していただいた質疑応答を、県費事務改善検討委員が検討委員会に持ち寄って、掲載に向けての検討を行っていきます。各地区で収集の依頼があった際は、評議員・県費事務改善検討委員へのご協力をお願いいたします。

諸手当認定マニュアル等についてのお願い

2月末～3月初旬にかけて、お手元に諸手当認定マニュアルと実務手引書の加除修正分が届いたと思いますが、差し替え作業はお済みでしょうか。もし、まだの方がいらっしゃいましたら、年度をまたぐ前に済ませてくださいますようお願いいたします。

また、地区から配布されたものや公用分(学校配当予算で購入したもの)については、学校保管となります。異動される際、新任校に赴任してから「あいたこらしもた。持って来てしまった!」ということのないようお気をつけください。

一方で、新任校に赴任してみたら認定マニュアル等が「元々から配置されていない」という場合があります。その際は、各地区の県事協評議員へご相談ください。よろしくをお願いいたします。

各地区の事務職員会等の紹介

鹿児島地区から

鹿児島市の学校事務研究組織の紹介

鹿児島市立生見小学校 上三垣 健士郎

【鹿児島市の概要】

まず、鹿児島市について簡単にご紹介します。鹿児島市は、ご存じのとおり県内で人口が最も多く、面積も市町村合併前の旧吉田町・郡山町・松元町・喜入町・桜島町の各地区を含めた広範囲に及びます。そのため、市の中心部には事務職員二人配置の大規模校が数多くある一方で、周辺部には児童数10～30人ほどの小規模校も複数あります。また、市の研修会などの出張の際には、南部の喜入地区やフェリー移動のある桜島地区からは多少時間がかかるため、時間に余裕を持って学校を出る必要があります。

【鹿児島市の学校事務研究組織について】

鹿児島市には「鹿児島市学校事務研究会」と「鹿児島市事務職員会」の二つの研究組織があります。県事協に加入しているのは「鹿児島市学校事務研究会」で、66名の会員で活動しています。メンバー構成としては経験年数豊富なベテランの方が多く、再任用職員や期限付職員の方々も多くいらっしゃいます。

研修会は全体会が年7回、グループ別研修が年3回の計10回行われ、テーマ研修や情報の共有、各会員からの資料提供などにより研修を深めています。会場は、全体会は教職員互助組合会館、グループ別研修は各地区公民館等となっており、鹿児島市ならではです。

【市費事務・予算について】

私が離島の学校から初めて鹿児島市に赴任してきたとき、やはり最初の印象として、予算が豊富で余裕がある、と感じました。消耗品費ひとつをとっても「学校管理費」、「教育振興費」とそれぞれに費目が分かれており、予算は豊富ではありますが執行の方法に最初は少し戸惑いがありました。しかし、今では市費の処理にもすっかり慣れ、予算があることはたいへんありがたいことだと痛感しています。

そんな鹿児島市ですが、コロナの波には勝てず、ここ2年は学校予算の減額が行われています。とくに今年度は、本校で前年比20%近い大幅な減額となり、厳しい状況です。しかし、先生方に節約のご協力をお願いしているのと、「感染症対策等事業予算」の有効活用により、なんとか乗り切れそうです。予算が厳しいのはどこの市町村、どこの学校でも同じことだと思いますが、こんなときこそ事務職員同士協力し合い、問題解決の道筋を見つけれれば、と思います。



写真

喜入生見町の千貫平公園
から望む開聞岳

写真

コアラ飼育頭数日本一。
平川動物公園のコアラ。
(KAGOPICより引用)

鹿児島市学校事務研究会より今年度も資料提供していただきました

～「学校事務の実務手引書」はお役立ち情報満載です～

鹿児島市学校事務研究会（以下、「研究会」）から「学校事務の実務手引書」を昨年度に引き続き提供いただきました。職員が採用されたとき・結婚したとき等、いろいろなケースごとに、県費事務と福利厚生関係事務がまとめられています。提供していただいたデータは5月頃、県事協HP（会員ページの各地区研修会資料）に掲載予定です。ぜひご覧ください。

研究会ではこのほか「市費事務の手引」等を作成しています。

第4回評議員会が開催されました

於 鹿児島市中央公民館

2022年3月9日（水）に、第4回評議員会が開催されました。

会の冒頭、寄井田会長から、「コロナ禍が続き、なかなか従来通りの活動というわけにもいかないが、対面の方がより充実した議論ができると考えている。そうした議論の中で出てきた意見等については、本団体が各地区協議会の連合体であるという大前提を忘れず、理事会でしっかり受け止めて協議していく。」とのあいさつが行われました。

協議においては、今年度事業経過や会計の決算見込の報告、来年度の事業計画案の説明、役員の改選、2022年8月10日（水）に黎明館講堂で開催予定の学校事務現状報告会についてなど、数多くの項目について、話し合うことができました。

質疑応答の一部をご紹介します。

Q 理事役員等の負担軽減策として県費事務改善検討委員の増員をお願いするとのことだが、それだけでは、県事協事業全体の負担感を是正する効果は薄いのでは？現状報告会のあり方を見直すなどの選択肢は持てないか？

A 検討委員の増員を契機として、理事役員の業務分担見直しを進めて負担軽減につなげたい。現状報告会については、発表地区のローテーションが過去の評議員会で決定されている、2024年度までは現行の運営でと考えているが、各地区の負担が大き過ぎるといふ話になれば、評議員会なり総代会なりで運営方法等を変更することは可能だと考えている。

Q 会費が1,400円から1,450円に上がったのは、検討委員増員による旅費の増加のためか？

A 現状報告会の会場費増によるもの。互助組合会館なら1,500円だが、サンエールかごしまは32,000円、来年度の黎明館講堂は使用料だけで18,000円程度かかる。

ご参加くださった評議員の皆様、ありがとうございました。

大変慌ただししい時期が参ります。元気に乗り切れるよう、会員の皆様くれぐれもご自愛ください。そして、来年度も県事協をよってたかって盛り上げてくださいますようお願い申し上げます。

ホームページ担当より

半年ほど前の穏やかな秋真っ盛りの頃、ホームページ内の県費様式において、諸手当の届出書や自主検査報告書などの「印」の一文字の削除を行ったのですが、住居届だけに申請者「印」が残っており、一部の方々に混乱を招いてしまいました。

他にも、共助会に更新をお願いした送付データがよしくなかったためか、会員ページに入れない期間が2月に数日発生しました。大変申し訳なく思っています。

しかし、見方を変えれば「しっかり利用されている」ことの裏返しなのだ、改めてやりがいを感じる出来事でもありました。これからは襟を正して、県内の学校事務職員が安心して利用できるホームページ運営に努めて参りますので、今後ともよろしく願いいたします。

活動経過及び予定

1月14日	理事会 中止・第3回常任委員会
2月下旬	県事協マニュアル等追録発送
3月9日	理事会・第4回評議員会
4月15日	理事会
5月13日	理事会・第1回評議員会

編集後記

ゆっくりと読む暇など誰にもないのでは？と思いながら129号を発行しましたが、ここまでたどり着いた方が何人いらっしゃるから...

さて、この編集後記、1年前は「いいこと書けなかった。来年こそ...」などと書いてありましたが、特に進歩もなく1年が過ぎていきました。少年老い易く学成り難しとはよく言ったものです。学成らずはさておき、老いた少年の身でこの1年を振り返ってみると、「力こそ正義」の風潮が退くどころか、ひたひたと押し寄せてくるようで息苦しくなります。一刻も早く「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、安心安全に暮らせる世界がおとずれることを願う今日この頃です。」 誠